

令和7年2月28日

ふじみ野市議会
議長 島田 和泉 様

ふじみ野市議会
青藍会代表 山田 敏夫

青藍会視察研修報告書

ふじみ野市議会青藍会所属8名は、令和7年1月21日から23日まで、大阪府枚方市においては不登校支援を（1月21日）、兵庫県宝塚市においては子ども議会を（1月22日）、奈良県奈良市においては子ども会議を（1月23日）テーマとする視察研修会を実施したので以下の通り報告する。

1. 出席議員

山田 敏夫、小林 憲人、加藤 恵一、原田 雄一
川島 秀男、前田 広子、鈴木 宏樹、板倉 篤

2. 視察研修先

- (1) 枚方市役所 大阪府枚方市大垣内町2丁目1-20
令和7年1月21日（火） 13:30～15:00
- (2) 宝塚市役所 兵庫県宝塚市東洋町1-1
令和7年1月22日（水） 10:00～11:30
- (3) 奈良市役所 奈良県奈良市二条大路南1丁目1-1
令和7年1月23日（木） 10:00～11:30

3. 視察の目的

(1) 枚方市の不登校支援

枚方市では、不登校の児童生徒について欠席日数や家庭と学校の関係性などによってレベル分けを行い、それぞれのレベルに応じた対応方針の策定や居場所づくりに取り組んでいる。これにより不登校であっても家庭や学校以外とのつながりを創出することを目指しており、学校への復帰だけにこだわらず社会的自立も目的とした不登校支援の取り組みの事例研究のため視察を行った。

(2) 宝塚市の子ども議会

宝塚市では平成19年のこども条例制定以前から子どもの意見表明の機会として子ども議会を毎年開催しており、今年で25年目となる。そこ

でこれまで長年にわたり積み重ねてきたノウハウなど具体的な取り組みや工夫について学ぶため視察を行った。

(3) 奈良市の子ども会議

奈良市では平成27年から奈良市子どもにやさしいまちづくり条例を施行しており、子どもの意見表明権や子ども会議についてもその中に定め、同年から子ども会議を開催してきた。そこで子ども会議の進め方や体制、子ども会議から出された提案に対する市の対応や事業効果等について視察を行った。

4. 視察研修の内容

< 1 > 大阪府枚方市 不登校支援について

(1) 背景

不登校の児童生徒は年々増加しており、その半数近くが90日以上長期欠席となっている。また家庭と学校以外のつながりを持たない児童生徒が半数近くいることからその対策に取り組んでいる。

(2) 取り組み

不登校に対する取り組みとして、「不登校対応方針（5つのレベルに応じた不登校対応など）」を定め、様々な形で子どもの居場所づくりを進めている。その一つとしてフリースクールに空き教室を貸与する試験運用も実施している。

また教育支援センター「ルポ」を中心とした支援活動を行っている。「ルポ」では学生による訪問指導を行っており、子どもの話し相手となるなどして不登校児童生徒の社会的自立を目指している。

現在試験運用中の取り組みとして、登校が困難な子どもを対象に「メタバース空間（バーチャル教育空間）」を活用した支援にも取り組んでいる。

一度不登校になると長期化しやすいことから、枚方市では新規の不登校児童生徒を減らすことを重要視している。また令和4年度には不登校児童生徒の69.0%が学校以外の公的なつながりがないと答えているが、様々な居場所づくりを通じて令和8年度までに0にすることを目標に掲げている。

(3) 所感

枚方市では、不登校の子どもたちをその状況ごとに階級分けすることで、それぞれが利用しやすくなるよう寄り添った取り組みが行われている。一方で不登校児童生徒数の増加傾向は依然として続いており、これらの取り組みがどれだけ有効かは未知数である。現在の複雑化した社会の中での教育のあり方の難しさを実感した。

< 2 >兵庫県宝塚市 子ども議会について

(1) 背景

宝塚市では平成12年から現在に至るまで毎年子ども議会を開催してきた。平成19年には宝塚市こども条例を施行し子どもが意見表明する機会としてこの子ども議会を活用しており、市もその意見を市政等に反映することとされている。

(2) 取り組み

宝塚市の子ども議会は、まず7月下旬に委嘱状の交付や子ども議員の質問のヒアリング等を行う事前学習会を開催した後、8月下旬に本番の子ども議会が開催される。子ども議員は私立校を含む市内の小・中・高校生であり、毎年担当となる15～16校からそれぞれ1名が選出され参加している。

そのため所管する子ども政策課は日程調整や参加校への議員選出依頼など新年度早々より準備に動き出すほか、終了後も会議録作成や要望に対する庁内の対応状況のとりまとめなども行い、要望を聞いて終わりとならないようにきめ細かな対応を行っている。

子ども政策課の職員の意見としては、要望に対して各課との調整など大変なこともあるが子どもたちの忌憚のない意見を聞くことができる機会であることにやりがいを感じているとのことであった。

また長年子どもたちが意見表明する機会を提供し、またその意見を市政に反映させるための努力を積み重ねてきた結果、市職員、子どもたち、学校関係者や保護者に至るまで「子どもの権利」というものが浸透していることが宝塚市の特徴であることも紹介された。

(3) 所感

答弁調整や提案の実現には課をまたぐ調整が必要であることから、職員の負担は相当なものがあると感じられた。市長部局、教育委員会、議会の役割や事務作業のすみ分けなど、均等な負担が重要であると感じた。

ふじみ野市議会では本年度より議会体験ツアーを開催しているが、過度な負担となることを避けつつより効果的な子ども議会の開催につないでいくために参考になる視察であった。

宝塚市は市長が2代続けて女性であり、市議会も女性議員が過半数を占め女性比率全国トップクラスとなるなどダイバーシティが進んでいる。ガラスの天井のその先に行く宝塚市の今後にも注目したい。

< 3 > 奈良県奈良市 子ども会議について

(1) 背景

奈良市はすべての子どもが今を幸せに生き、夢と希望をもって成長していけるようにとの願いを込めた「奈良市子どもにやさしいまちづくり条例」を平成27年に施行した。この条例は子どもが権利主体として尊重されることが基本理念とされており、子どもの意見表明や社会参加促進のための方策として子ども会議の設置を定めており、条例施行以降毎年開催している。

(2) 取り組み

「奈良市子どもにやさしいまちづくり条例」策定にあたり、市は条例検討委員会の開催に並行し、3年をかけて子どもの声を聴くためのアンケートやインタビュー、ワークショップ、シンポジウムといった取り組みを行った。

その基本理念は、子どもは権利主体として尊重されなければならないことを大原則とし、子どもの意見に耳を傾けその最善の利益を第一に考えること、子どもにやさしいまちづくりはすべての人にとってやさしいまちづくりであるといったことが基本理念として定められた。

この理念を形にするため、子どもの意見表明と参加の場として奈良市子ども会議を設置（条例にも明記）し、年に1回開催している。

奈良市子ども会議は一つのテーマについて5名ほどのグループでの議論を5回も重ねた後に意見書としてまとめたものを市長らに提出しているが、単なる要望の場にならないために子どもたち自身にも何ができるのかを考えてもらっている。関係各課も巻き込み市役所全体で子どもの意見に耳を傾ける体制を作ることで単に意見書を渡すだけのセレモニーになることを防いでいるとのことであった。

子どもたちの思いが実際に形になった例として、屋台が出るイベントで賑わいを創出する「まちの食卓」のほか、段ボール迷路や大縄跳びイベントを行った移動あそび場の開催などがある。

(3) 所感

子ども会議では、子どもたちが要望するだけでなく自身にも何ができるのかを考えてもらうと同時に、市役所全体で子どもの意見に耳を傾け、実現に結びつけていく体制がつくられていることは特に印象的であった。

子ども会議の開催から提案の実現までのプロセスは完成度が高く、理想的に行われていることがうかがえる。そこには担当者の努力と庁内の連携が必要不可欠であり、本市でも今後の取り組みに大いに参考になるものであると感じた。